



初めてのバンクーバーシニア遊学

片山信子

今回参加した遊学というものは、午前中は英語を学び、午後は観光やダンスをする等バンクーバーを楽しむ内容です。無謀とも思える一人での参加でしたが事前に、スタッフの方と何度かメールのやり取りをしているうちに不安もなくなり楽しみになっていました。

現地に到着してスタッフの方が笑顔で出迎えてくださった時は長い旅が終わって、ほっとした瞬間でした。また、これから2週間、行動を共にする仲間たちは例年より少なく8人でしたので、すぐ打ち解けることができました。滞在は、UBCという東京ドームがいくつ入るんだという広い大学の敷地内にある施設をお借りしたもので、宿泊・食事・勉強がそこで全て出来ました。一人部屋なのでプライバシーが守られ、自宅にいる様にリラックス出来最高です。



授業は4人ずつでちょうど上級と初級に分かれました。私は当然初級クラスです。我が、クラスは脱線しながらのユニークすぎるものでした。が、先生は脱線から話を広げて、いつの間にか授業に戻っていました。さすがです！フリータイムで行ったビクトリア湖周遊の船で、一羽のカモメが迷い込んで大騒ぎになりました。夢中で見ていたので、写真を撮り損ねましたが、今でもあの時の感動は目と心に焼き付いています。

色々なイベントの中でも、スクエアダンスは初めての経験で楽しいひと時でした。また、ショッピングセンターで2人ずつに分かれ、それぞれのお店で英語で話しかけながらメモにある食材を買いました。買って来た食材を広げてみんなでランチした時は、まるでピクニック気分ですごく楽しかったです。普通の海外旅行では味わえない体験でした。

帰国前日は無謀にも一人でバスに乗り、ショッピングに行き、店員さんに話しかける事もでき、迷子にもならず、無事帰り着きました。今までの人生でかなりの冒険でした。毎日が密度の濃い至福の時間を過ごしました。

私も含めて4人は帰国しましたが、なんと他の4人の方は、それぞれバンクーバーに残り、お友達の家に行ったり、コンドミニウムやホームステイをしながら大学に通ったりと、次の計画を立てていました。そのバイタリティーにびっくりです。



England 便り

☆立木弘賢

Hiroataka Tachiki

Dear Michi

無事ロンドン大での一年目を終えることができました。

4ヶ月ほど夏休みになりますが、欧州の友人宅に尋ねたりを予定しているので、日本には帰らない予定です。(夏休み期間中の寮の延長、及び来年度の学生寮の手続きも終えました。)とりわけモンテネグロ出身のアンジェラとはお互い一人っ子ということもあり、どこか兄妹のようなとても信頼し合える関係を築くことができました。今日もロンドン市内を一緒に歩き回ってきました。夏にモンテネグロ/隣のセルビアに飛ぶ予定です。このままうまく行けばいいと思っています。幸いアペノミクスが発動する前に思い切って2014/2015年度分の学費を英国の口座に移しておいたので、現在の円安の影響はそれほど考えないで留学を終えることができと思っています。この辺は留学生という立場上、自己責任ですからね。こう泣き言を言わないように気をつけます。ただし院に行くとなると話は別です。平均点68以上を獲得できればオックスフォードに行くこともでき、またその得点は十分視野に入っています。また来年相談すると思います。それと試験期間中、図書館で面白いアイデアを思い



つき、日本にいるプログラマの友人とあるwebサービスのプロジェクトをスタートしました。面白く、ロンドン大の学生である自分ではしか実行できないそのアイデアに、友人も珍しくとても乗り気です。ゆくゆくは起業に繋がるかも知れませんが、その前段階になったらまたお知らせします。Truly yours, Hiro



2013年(第9回)学校自慢エコ大賞

「エコ作文部門大賞」

東京都目黒区東根小学校 4年生
村田主喜くん



ぼくは今シリア沙漠にいる。写真家のお母さんと1才の時から毎年春休みに、シリアにあるシリア沙漠に住むベドウィンの家族とくらしている。ここには電気もガスも水道もない。物はぼくたちよりはるかに少ないが、思いやりやいたわりややさしさがたくさんあり、ゆたかな心でくらしている。ベドウィンの家族は羊の放ぼくの仕事をしている。羊はえさの草を根っこから食べてしまうので、い動しながら生活している。家はヤギの毛でおったテントでとても大きい。中は家族が食事をしたりする部屋・ねる部屋・お客さんが来た時に使う部屋などがある。ゆかのござやじゅうたんがしいてある。他に家事用のテントもある。そこで主食の「ホプズ」と言うパンを作る。ホプズはぜんりゅうこと水と塩できていて、中かなべをさかさまにしたような物の上でうすく丸くのぼして焼く。ねん料は羊のフンをかんそうさせたもの。羊のフンはかんそうすると炭と同じようになる。ここにはゴミ箱がない。すてる物がないからだ。買い物をしてもふくろ一つにまとめて入れるので、日本のように一つ一つ包んでいない。食べる物はくさる前に食べ切ってしまうし、必要以上の物は買いこまない。ねる時は日本と同じようにふとんでねる。ふとんは着れなくなった服で作ったりする。ベドウィンの家族が引っこしをするときは家ごと全部。テントは丸めてトラックにのせてしまう。服や生活道具も全部一台のトラックに入ってしまう。ぼくたち人間も。長い間同じ所に住むと虫もわくしゴミもたまってくる。でもい動すればその土地をいためる前に土地はさいせいする。ベドウィンの家族は百円のライターを使っている。百円ショップは安くて良いのだが、こわれたら百円だからいいや、新しく買おう思ってしまう。この考えは百円ショップだけにかぎらない。ここでは物がこわれたら新しくしようではなく、まず直そうと考えるのだ。物がたくさんあったり買えたりするのがゆたかとはかぎらない。ある年お母さんが、火をおこすのに便利だとうちわを持って行った。はじめは喜んで使ってくれたがそのうち使わなくなった。いつものように、着ている服のすそではたたいた方が早く楽だからだ。けっきょくゴミになってしまった。便利な物が良い物とはかぎらない。便利な物が必要な物とはかぎらない。ぼくには何ができるだろうか。ベトウィンの家族のことを伝えることができる。くらしを知ってもらって、小さなことからでもまねをすることができる。物にたよらないで本当に必要なか考え、物を少なく、ゴミをへらす方法を考えよう。シリアは日本から遠い国だし、今は内戦をしていて行けないがつながっている。ぼくたちは同じ地球に住み、同じように未来があるのだから。



The origin of the Chinese character “笑” ジョーク

Once upon a time, one of the famous monks, Kohodaishi invented various types of Chinese characters and taught them to people. However, he couldn't think of the origin of the character of 笑, which means "laugh". One day, he heard the dog barking outside of the temple. As he went outside, he found the poorly dressed monk who had been chased by the dog. He was swaying his stick and it implied that he wasn't keen on the dog. The dog seemed to have hesitated to greet him, and ran away. As he hurriedly ran away, he stumbled on the bamboo basket. The bamboo basket shot up in the air and then dropped on to the dog's head. Having lost his sight, he was rotating around and it looked as though he was dancing frantically. Onlookers found it funny and started laughing at the dog. The dog didn't seem to know how to take off the bamboo basket and kept rotating and barking in different directions. Having looked at the dog wearing the bamboo basket, Kohodaishi also found it funny and laughed at him. He kneeled down and wrote the letter of dog “犬” under the letter of the bamboo “竹”

It is said that this episode originated the Chinese character of “笑”

Contributed by Chihiro Goddard



ロサンゼルス短期留学を終えて

金子麟太郎

ミッチーと初めて会ったのは、去年の秋頃でした。銀座のスターバックスで会う約束をして、僕は予定よりも早く着いてミッチーがどんな人かも知らず、連絡がとれないままひたすら待ちました。もしかすると、そこからすでに留学の訓練が始まっていたのかもしれない。それから何度か面談を重ねて三月には留学先が何となく僕の興味のある事からアメリカに決まりました。ミッチーには僕の興味が多様である事から留学先をアメリカに絞りこむ作業で大変な思いをさせてしまったと思います。そうこうするうちに四月の頭にはロサンゼルスのアーバインにある青井カレッジに三週間まずは行くことになり、青井さんと十日後には一緒に行く運びとなりました。十日間という短い期間で準備をして僕は初めてアメリカへたくさんの人の力を借りてワクワクした気持ちで出発しました。ロサンゼルスはとても速く感じました。空港ではとても税関が厳しくて苦労しました。その日は夜八時くらいまでホストファミリーのみんなが眠そうな顔をして待っていてくれました。マーク、ローレン、テイラー、コーナー、ケイデン、ブレンツ、五人プラス犬一匹のとても楽しい家族でした。ローレンは花が好きで、マークはギター、子供達三人はポケモンなどのアニメが好きでとても一人一人の個性がはっきりしてました。いよいよ週があけると語学学校が始まり、送り迎えをしてもらいました。本当は路線バスで行き来しなければいけなかったのですが学校の初日に帰るルートを一時間のところ四時間かけて帰宅したからです。アメリカの道路は本当に広くて区間が長くて大変でした。ただひたすら歩いてようやく帰宅して家族に迷惑をかけたけれど、温かく接してくれました。これも良い体験だったかなと今となっては思います。ホストファミリーには短い期間でしたが、生活に密着した体験を色々させてもらえました。週末は家族で車に乗って一時間かけて教会へ出かけ、この体験によってキリスト教に対する考えが良い方へ変わりました。また、パーティーやチャリティーが多く、作った曲を披露する機会を頂きました。コミュニティも日本より多くあり、ご近所の方ともフレンドリーに接してもらえました。この短期留学で得た物は、僕が小さい頃から思えがいていた人間像や家族像や社会像がアメリカにはあったという事です。それが体験出来た素晴らしい留学でした。



Switzerland 便り

☆河合雅子



Dear Michi

スイスに来て半年が過ぎました。今もまだ言っている事も、書いてある事もわからないことのほうが多いですが、お蔭様で毎日楽しく暮らしております。初めは、買い物するのも一苦労でした。書いてある言葉がわからず、辞書を片手に調べながら買っていたので、買い物に2、3時間はかかっていたのですが、少しづつ単語も覚えて今では何とか買い物は出来るようになりました。来てすぐは季節のせいも、気分が沈むこともたくさんありました。やはり言葉の壁が大きかったと思います。でも、引きこもってはいけなないと思、家から歩いていける距離で一人で探検!少しづつ移動範囲を広げていきました。こちらの人は、親切で穏やかな方が多いと思います。道に迷って地図を広げていると、「どこに行きたいの?」と親切に教えてくださいました。また、とても親日家の人が多いと感じました。日本人という話しかけてくださったり、とても親切にしてくださいました。「日本人はとても礼儀正しいし、親切だから好き」といってくださる方が多いです。これは、以前から住んでいらっしゃる方々のおかげだと思います。夫が和食のレストラン「松」で働いていることもあり、日本人の方と交流を持つことも早い段階で出来ました。それに日本のものが売っているお店も近くにあり、スイスに来てもっと不便を感じるのかと思っていたのですが、ジュネーブは住みやすくすぐに慣れました。初めはこんな違いがあるんだと感じたことも、今ではすっかり当たり前になってしまいました。ですからあまり不便を感じることはありません。日本との違いといえば、白夜でしょうか。5月末くらいから日が長くなり、夜の21時でもまだ明るい。初めての経験でした。初めての経験といえば花火。スイスも先日花火大会がありました。白夜のため、始まりは22時から。友達に誘われて観に行っただけですが、素晴らしかったです。スケールが違いました。大迫力です!音楽に合わせて花火が上がるのですが、演出が素晴らしい。圧巻でした。花火を見るというよりはショーを見ているようでした。みんなすごい歓声を上げて観ていました。国が違うと花火の上げ方も違うんですね。貴重な経験でした。これからも少しづついろいろなことを見たい感じたりして学んでいきたいと思っています。

